

IOSCOによる証券市場業における技術による変化の潜在可能性の分析

本日公表した新しい報告書は、金融テクノロジー（以下、「Fintech」という。）と証券市場規制の交わりがますます重要となっていることを強調するとともに、それが投資家及び金融サービスに与える影響を記述している。

証券監督者国際機構（IOSCO）が公表した Fintech に関するリサーチ報告書は、以下を含む、金融サービス業を変質させる多様で革新的なビジネスモデルや新たなテクノロジーについて記述している。

- 金融プラットフォーム：ピア・トゥー・ピア・レンディングや株式クラウドファンディング
- ロボ・アドバイザーやソーシャル・トレーディングを含むリテール向け取引及び投資プラットフォーム
- 債券取引プラットフォームにおける革新に特に焦点を当てた、組織化された取引プラットフォーム
- ブロックチェーンや共有台帳の技術を証券市場に適用した分散型台帳技術

本報告書は、これらの新しい技術が、投資家、証券市場、証券規制当局に与える機会及びリスクの双方を分析している。

Fintech の成長を促す重要な傾向

本報告書は、金融サービス業における技術による変化の局面を生み出している、以下を含む重要な傾向についても記述している。

- データの利用可能性の向上
- 今まで以上に膨大なデータの分析を容易にする計算力の急激な拡大
- 商品やサービスへのアクセスの拡大やコストの低下
- 増加する仲介排除や再仲介
- 人口動態や時代の変化

これらの傾向は、証券規制当局が技術の革新に遅れずについていくとともに、金融システムをより包摂的、効率的、弾力的にするための潜在可能性を引き出すために、将来を見越した対策を採ることを促している。いくつかの規制当局は Fintech に特化した部署、連絡窓口、拠点を設けている。他の規制当局では、革新者が金融サービスに資する Fintech に関する解決法を実験することが可能となる規制のサンドボックスの枠組みを立ち上げている。また、他の規制当局は、新しい技術が規制の目的をより達成するためにどのように助けとなるのかを探るため、研究所や促進プログラムを設けている。

同時に、規制当局は、Fintech に関連したリスクにも対処している。これらのリスクは技術によって異なるが、例えば、資格を有していないクロス・ボーダーの活動や、自動化されたアルゴリズムのプログラムの誤り、サイバー・セキュリティにおける違法行為及び投資家が金融商品やサービスを理解出来ないことから生じる問題といった特定のリスクは、Fintech の分野に共通して発生している。

金融業者が反マネー・ローンダリングや詐欺行為を管理するために“顧客を知る”ことに失敗するという、別のリスクもある。インターネットを介した口座開設は、顧客に、本当の身元を隠すために偽の情報を入力する機会を与える。同様に、自動化したプロフィール・プロセスを利用する金融業者には、適切な投資提案を行うために“顧客を知る”ことに失敗するリスクがありうる。

クロス・ボーダーへの課題

テクノロジー企業はグローバルに活動を行う一方、規制は概ね国内又は地域的な境界の中で実施される。規制の地域的な性質はクロス・ボーダーの監督や法執行に関する課題を生じさせる一方で、管轄を横断した規制の不一致は、規制裁定の可能性を増大させる。

IOSCO エマージング・リスク委員会、成長・新興市場委員会及び協力会員諮問委員会の貢献によって作成された本報告書によれば、Fintech のグローバルな性質は、それゆえに規制当局が国際的な協力や情報交換を通して対応すべき課題を作り出している。